

平成 23 年版

(参考)

徳島県観光動態調査

外国人入込客数の状況について

徳島県観光国際総局

平成22年 徳島県観光動態調査 外国人入込客数の状況について

国では、訪日外国人旅行者の誘客を促進するためのビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）が推進されている。

本県においても、関西や四国という広域連携を活用したVJ地方連携事業などにより、外国人旅行者の誘客促進を行うと同時に、徳島県国際観光テーマ地区推進協議会を中心として受入態勢の整備に努めてきた。

この施策評価の指標の一つとして、また本県における外国人旅行者の動向を把握するために、平成18年から県内市町村に対し、外国人旅行者の入込（宿泊）客数を調査している。

概要は、次のとおりである。

1 調査方法

県内市町村へ各市町村管内の観光地点及び宿泊施設の外国人入込調査を依頼

2 調査期間

平成22年(1月～12月)

3 調査対象

徳島県観光動態調査と同じ(観光地点及び宿泊施設)

4 調査結果

(1) 回答市町村

調査回答のあった市町村は次のとおりである。

① 観光地点

回答市町村: 14市町村 52地点 ※

分類別	自然	文化・歴史	産業観光	スポーツ・レクリエーション	温泉	買物	行事・祭事	イベント	計
徳島市		1		2					3
鳴門市	2	5		2				1	10
阿南市		1						1	2
阿波市				1					1
美馬市	1	5		1	2	1			10
三好市		1							1
佐那河内村				1					1
神山町					1	1			2
那賀町			1	1		1			3
牟岐町				1					1
北島町			1						1
藍住町		1							1
上板町		2				1			3
東みよし町	4			4	1	3		1	13
計	7	16	2	13	4	7	0	3	52

※回答市町村とは、回答があり、外国人入込客があった市町村のこと。

② 宿泊施設

回答市町村: 14市町 87施設 ※

分類別	ホテル・旅館	民宿・ペンション	公共宿泊施設	ユースホステル	キャンプ場・その他	計
徳島市	22					22
鳴門市	11					11
小松島市		2				2
阿南市	1	2				3
阿波市	2	1				3
美馬市	3	2	4			9
三好市	8	5		1	2	16
神山町	1					1
那賀町	1				1	2
牟岐町		3				3
美波町	3					3
海陽町	5	3				8
上板町		1			1	2
東みよし町	1				1	2
計	58	19	4	1	5	87

※回答市町村とは、回答があり、外国人宿泊客があった市町村のこと。

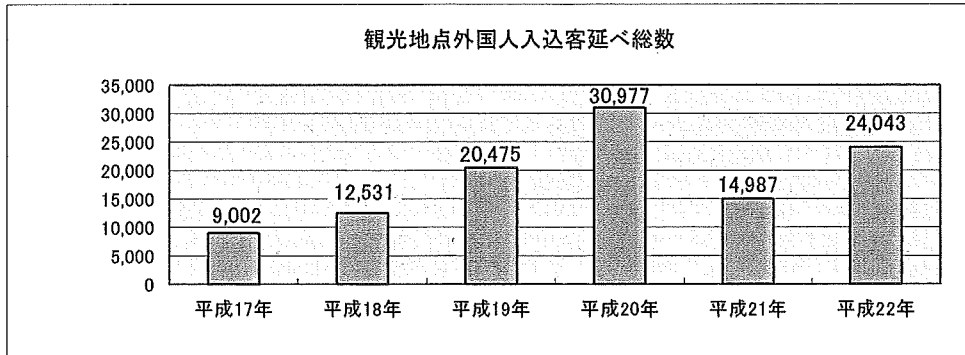
客室数別	0～50室	51～100室	101～150室	151室以上	計
徳島市	10	6	1	5	22
鳴門市	7	3		1	11
小松島市	2				2
阿南市	3				3
阿波市	2	1			3
美馬市	8	1			9
三好市	15	1			16
神山町	1				1
那賀町	2				2
牟岐町	3				3
美波町	3				3
海陽町	8				8
上板町	1	1			2
東みよし町	2				2
計	67	13	1	6	87

(2) 結果概要

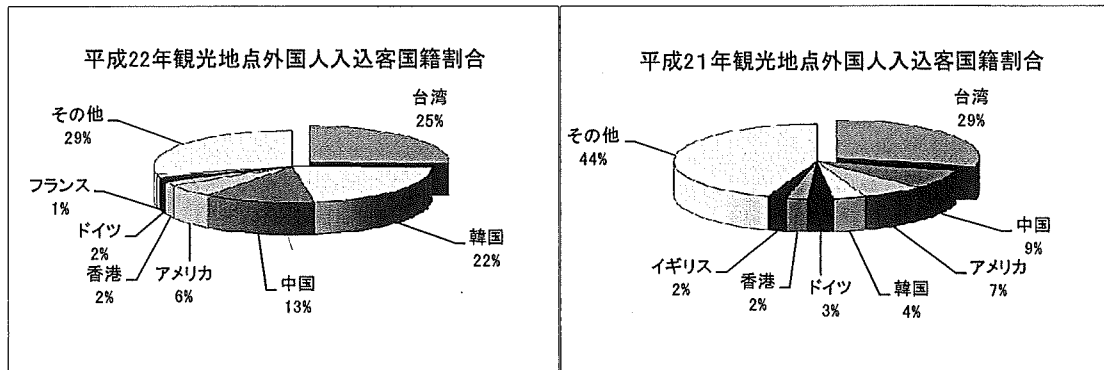
結果概要については、次のとおりである。

① 観光地点

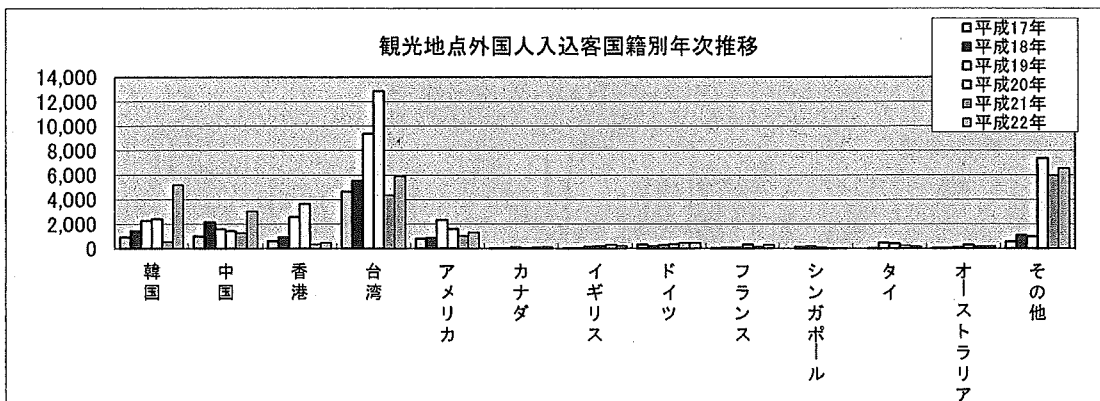
県内観光地点を訪れた平成22年の外国人入込客延べ総数は、平成21年より9千人以上増加し、24,043人となっている。(前年比160.4%)



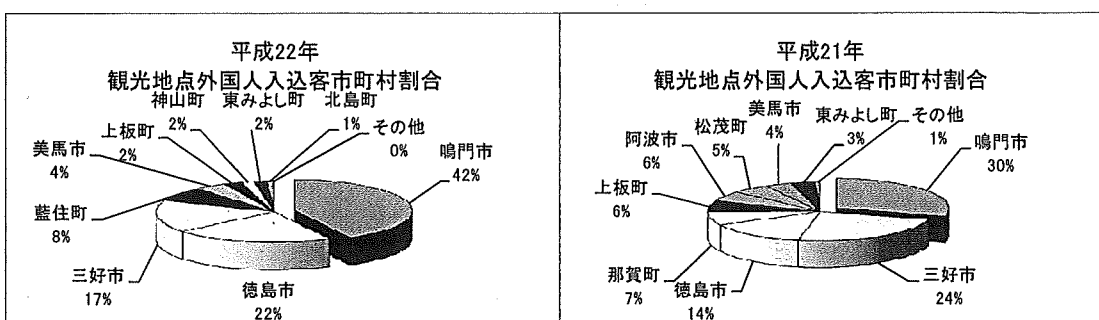
国籍別に分類すると、平成22年は台湾、韓国、中国が全体の6割を占めており、東アジアを中心とした観光客が多いことが伺える。



国籍別の年次推移をみると、台湾、韓国、中国の上位3国や香港、アメリカなどが前年に比べて増加している。

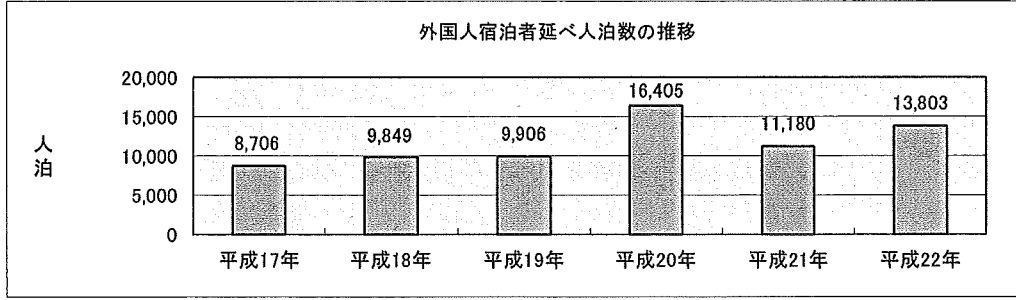


市町村割合では、鳴門市が全体の約4割を占め、次いで徳島市、三好市の順で多くなっている。

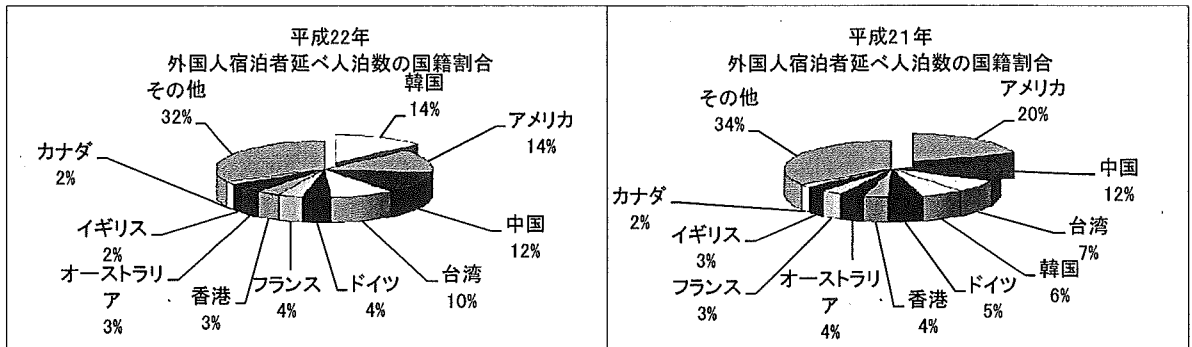


② 宿泊施設

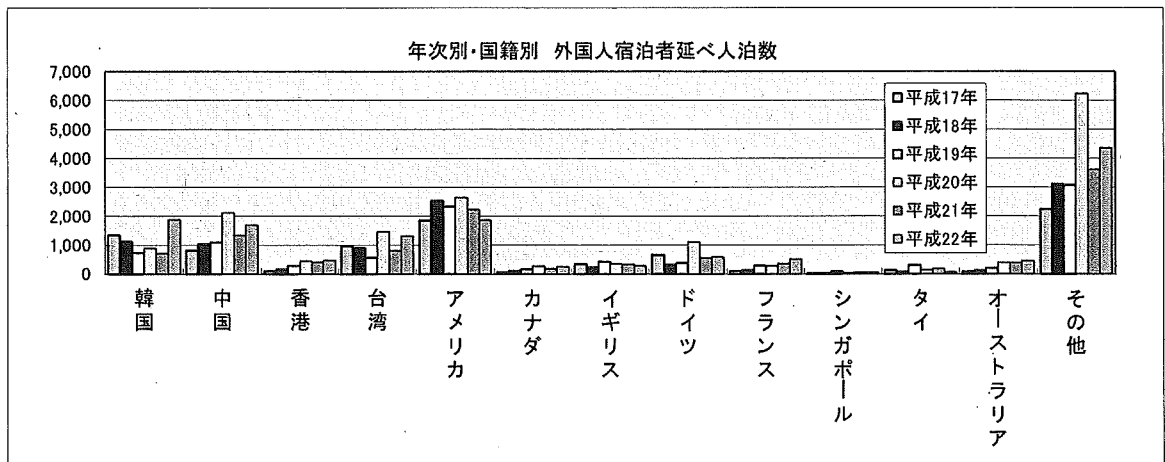
県内宿泊施設に宿泊した平成22年の外国人宿泊者延べ人泊総数は、13,803人であり、平成21年と比較すると2,600人以上増加している(前年比123.5%)。



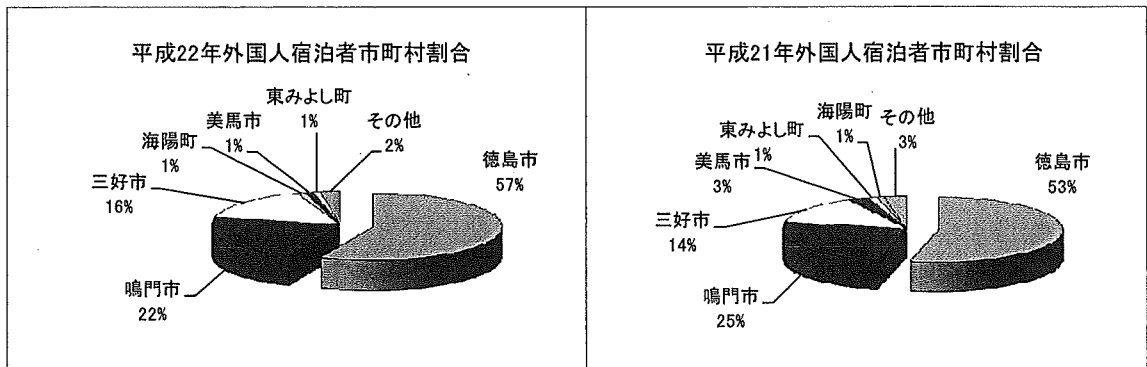
国籍別に分類すると、韓国、アメリカが最も多く、続いて中国、台湾が上位を占めている。



国籍別の年次推移を見ると、アメリカは前年より減少したが、東アジア諸国は着実に増加しており、特に韓国、中国、台湾の増加が顕著である。



市町村割合では、各年とも徳島市が最も多く、次いで鳴門市、三好市の順となっている。



③ 平成22年の状況

外国人観光客の入込状況を見ると、台湾や韓国からの観光地点への入込が顕著であるが、延べ宿泊者数は相対的に低い。このことは、「県内の観光施設は立ち寄りものの、宿泊は県外」といった通過型の団体周遊が多いことが要因の一つと考えられる。また、香港については宿泊者数と観光入込客数がほぼ同数であることから、宿泊を伴う観光客が多い傾向にあることが伺える。

また、アメリカやフランスなどの欧米旅行客は、連泊型の個人自由旅行者、あるいは観光を伴わないビジネス客のどちらかが多いのではないかと推測される。

